



持続可能な「ふくし社会」を創る

ふくし・マイスター News

ふだんの くらしの しあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう!

■ふくしAWARD(アワード)の募集がいよいよはじまります。

ふくしAWARDとは、大学の授業や課外活動で学んだことについて、プレゼンテーション能力・ICT活用能力を基礎にして互いの学びを「表現」し合う、全学生対象のプレゼンテーションコンテストです。授業の中で学んだこと、夏休みに行ったボランティア活動や自主的に取り組んだことなど、を表現してみませんか。ふくし・アワードは、2017年1月24日(火)開催予定です。



さあ 表現と発見のステージへ。

大学生活での経験や、学んだ事、授業だけではなく、もっとたくさんの人に伝えてみませんか?日本福祉大学には、おもしろい学びを深めている学生がたくさんいます。それぞれの学びを表現しあうことで、きっと新しい発見と成長があるはず。伝えることは難しいけど、チャレンジしてみませんか?

ふくしAWARD 2016

エントリー受付期間・募集要項

2016.9.12 MON → 11.11 FRI



科目を通じた学びや、自主的に取り組んだボランティア活動等での学びを深めて、プレゼンテーションコンテストに応募してみませんか。相手に伝えることは、相手の立場で理解を深め、意味づけをする行為です。応募は1人でもグループでも可能です。たくさんの応募をお待ちしています。詳細は、ホームページよりご覧ください。

詳しくはWEBサイトをご覧ください。(左のQRコードからもアクセス可能です)

www2.n-fukushi.ac.jp/f-award/2016

学外からのアクセスの際は、学内認証画面が表示される場合があります。
学内認証についての問い合わせは各キャンパスICTサポートデスクまでお問い合わせください。



社会福祉学部

サービスラーニングの夏の活動が35のNPOで実施されました。



【NPO法人チャレンジド】

今年は、前半の3日間を主に「知る時間」とし、放課後等デイサービスちやれっこくらぶでの活動を中心に、障がい当事者のお宅訪問や普段何気なく通っている道を車いすに乗って移動してみる体験を通して車いすユーザーの視点を体感する活動を行いました。実際に美浜に住む障がい当事者の何気ない日常やこれまで地域で障がいと共に生きてきた生の声などを聴き、今年もたくさんの気づきに出会えたようです。これらは、学生たちが障がい当事者と自分たちを身近に感じる大事なポイントとなっているようです。(チャレンジド青木)

NPO法人チャレンジドの社代表とともに「ふくし」の視点で、美浜町をフィールドワーク。



※サービスラーニングとは、社会活動を通して市民性を育むことを目的とするもので、取り組みを通じて「まなぶ力」「つながる力」「やりとげる力」を身につけることを狙っています。2009年から知多半島のNPOと連携したプログラムを導入しており、本年度は知多半島内の35のNPOに約130人の学生が参加しました。

【NPO法人Smiley Dream】NPO法人Smiley Dreamで活動を行う学生たちは、8月11日(木)に半田市のクラシティ3階で行われた同団体が主催する「将来何になる？」の運営に関わりました。この取り組みは、産学公連携による小中学生にむけたキャリア教育の場の創出を目的にしており、今年から新しく始まった取り組みです。運営に携わった学生からは、「私も、高校生の時の出会いがきっかけでふくしの道に進むことになった。このような場が地域にあることが子どもの成長にはいいのではないかと感想を話してくれました。(中野)



小・中学生向けのキャリア教育のイベントの運営をサポート。



学生が考えたストラックアウトで楽しむ子どもと学生。

【NPO法人ゆめじろう】NPO法人ゆめじろうは障害福祉サービスや介護保険事業をはじめ、地域社会への啓発研修事業を展開しており、今年度は4人の学生が活動に参加しました。学生たちは、事前訪問に訪れた際にゆめじろうスタッフから祭りの実施を聞き、自らも家族全体で盛り上がるストラックアウトを出店して、祭りに加わることになりました。社会福祉学部2年の山田真平さんは、「サービスラーニングに参加して、NPOの活動は法人単体で完結するではなく、一般市民や行政、市民団体などと広く関わることが大切で、その繋がりが地域を盛り上げることを知った。」と話してくれました。(学園広報室)



子ども発達学部 粘土づくりで園児の柔軟性理解。

社会福祉学部 「南粕谷ハウス」で園芸サロン！



子ども発達学部の学生たちが、美浜町上野間保育所の園児たちと粘土づくりを8月31日に同保育所で行いました。今回の活動は子どもたちに、粘土の粉の状態から触れて感触を楽しむ体験や先生や友だちと一緒に粘土でつくって遊ぶなどの狙いをもって行われたそうです。また、日常的な学びの実践による学生の気づきを目的としており、上野間保育所の協力を得て実施されました。当日は子ども発達学部江村和彦准教授と同ゼミナールを中心とした6人の学生

(同学部子ども発達学科保育専修3・2年生)が担当し、園児50名が参加しました。(学園広報室)



【認知症プロジェクトより】

2016年8月25日(木)、認知症啓発プロジェクトのメンバー(北山智子・花村映理子・佐野優華・織田あさひ)で、知多市の南粕谷ハウスにおいてサロンを実施しました。当日は、幼児から年配の方まで15名程度の方が参加し、なぞかけや手を使ったゲームをした後、鉢植えに装飾をして、花を植える「プチ園芸」を行いました。最後に、「人との交流をすることや会話をする事自体が認知症の予防になりうる」という研究が報告されていることを紹介しました。サロンでは、「楽しかった」「またやってほしい」などの感想を伺い、とても嬉しかったです。(社会福祉学部2年北山智子)



国際福祉開発学部 おいじゃあアートキャンプで日本福祉大学生が大活躍！！



慣れないのこぎりの使い方を教そわりながら木材を切断しています。



8月6・7日に、愛知県美浜少年自然の家で1泊2日のアートキャンプが開催されました。このキャンプは、知多青年会議所の主催事業で、子どもたちの「表現したい！」という想いを叶え、その過程で仲間づくりや思いやりを学ぶことを目的とした取り組みです。知多市内で多文化共生を推進する”ちたビジョンプロジェクト”が共催し、市内に住むブラジル、ポリビア、ペルー出身の子どもたちも多数参加しました。およそ40名の、4・5・6年生が泊まりでアートに励む…素晴らしい企画ですが、運営するのは大変！中には日本語があまり話せない子や、特別なサポートを必要とする子もいます。そんなアートキャンプを支えたのが、ボランティアスタッフの学生さんでした。日本福祉大学からは、国際福祉開発学部と経済学部の学生が参加し、炎天下の中、子どもたちに寄り添い活動しました。（竹内）

健康科学部 亀崎リノベ大学の事業に挑戦。



半田市亀崎町の「NPO法人亀崎まちおこしの会」は、地方創生加速化交付金事業として亀崎の空き家の改修と利用促進のための取り組みを行っています。その中の「亀崎リノベ大学」と呼ば

れる、大学の研究室単位で行う古民家リノベーションの提案事業に、半田キャンパスのバリアフリーデザイン専修の毛利志保准教授率いる大学3年生・4年生の学生4名も取組むことになりました。比較的小さい規模の複数の空き家をそれぞれの個性を活かしながら利用することでネットワーク型のシェアハウスをつくるという亀崎まちおこしの会からの課題に対して、提案を行う予定です。（池脇）

健康科学部 中心市街地活性化報告会で披露！

半田キャンパスのバリアフリーデザイン専修の学生7名はこの春から半田市の市街地活性化を考える取り組みを進めてきました。8月8日、日本福祉大学健康科学部バリアフリーデザイン専修主催の中間報告会が開催され、NPO法人半田市観光協会とCラボ半田の協力のもと行われました。今回、プランニングをしたのは観光情報発信拠点である「アイプラザ半田」とその周辺の「半田運河」です。普段建築を学んでいる学生ですが、ハードの提案のみならず、ソフトの提案も絡めて、プランニングを進めてきました。本で人をつなぐまちライブラリーの仕組みを取り入れた提案もありました。（池脇）



経済学部 災害時に避難所となる東海キャンパスで、合宿型の「防災・減災キャンプ」実施

経済学部では、課題解決型学習を取り入れた科目「地域研究プロジェクト」を展開しています。この科目の導入として、チームワークを高めることを目的に8月31日から1泊2日で、「防災・減災キャンプ」が企画され、経済学部生14名と教員7名が参加しました。一日目は、東海市防災危機管理課の防災専門員から、東海市の被害想定や避難所、災害時に想定されること等について話を聞きました。その後は、何年も被災地支援に携わる山本克彦福祉経営学部准教授と佐藤大介全学教育センター助教によるふりかえりのワークショップが行われました。夜は災害時水なしで調理できるアルファ米を食べ、体育館に泊まりました。二日目は、避難生活や避難所運営の課題に対して、災害時に自分たちができることは何か、どのような活動が求められているのかを考えました。避難所の閉塞的な雰囲気や和らげるために交流企画を行いたいという意見や、防災情報を集約し、発信するステーションを構築したいという意見が出されるなど、活発な議論が行われました。（竹内）



ふりかえりのワークショップで学んだことの整理を行う経済学部の曲田学部長と学生



日本福祉大学は、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」として、地域と連携をすることで、教育・研究・社会貢献の取り組みを展開しています。地域の拠点として、3つの「Cラボ」を設置して、地域連携を専門とするコーディネータが学生や教職員の様々な活動を支援しています。

Cラボ東海

知多市「ちた未来塾」で地域活動を学び合う。



竹内綾コーディネータ

「ちた未来塾」とは、講座や体験を通して地域活動を実践する先輩とともに学び合う場です。吉村輝彦(国際福祉開発学部教授)塾長のもと、これからの未来を生きる仲間とともに語り、助け合いながら、想いをカタチにしてみませんか? 国際福祉開発学部や、経済学部の学生が参加しています。興味がある人は、Cラボか全学教育センターに問い合わせください。(竹内)



まちづくりに興味をもち参加した国際福祉開発学部の学生と参加者



NPO法人半田市観光協会にてサービスラーニングを行う学生

半田市の新たな観光資源に。半田運河Canal Nightを開催。

8月19日(金)20日(土)に半田運河で開催された光のイベント「半田運河Canal Night」にバリアフリーデザイン専修の学生が運営に携わりました。担当した蔵のまち公園の空間デザインでは、シャボン玉発生器を利用して幻想的な空間を作ることで、子どもにも大人にも親しみやすい空間を演出しました。他にも、半田市観光協会にてサービスラーニングの活動を行う学生や有志のボランティアスタッフも多数関わり、初めてのイベントを支えました。(池脇)



池脇啓太コーディネータ(右)と名倉弘二コーディネータ(左)

Cラボ美浜

美浜町ブルーツーリズムで学生がボランティアスタッフとして参加。



廣澤節子コーディネータ

8月27日(土)、美浜町の海の恵みを体験する「ブルーツーリズム」が南知多ビーチランドで行われ、応募した家族の体験をサポートするスタッフとして、健康科学部、社会福祉学部、子ども発達学部の学生計5名が活動に参加しました。南知多ビーチランドでイルカのショーとタッチを行い、その後奥田海岸に移動して、全員で地引網をひきました。子ども発達学部3年の久米和佳那さんは、地元の自治体職員が、まちの魅力を伝えるために努力されている姿勢が伝わったと感想を述べてくれました。(廣澤)



美浜町グリーンツーリズムサポートをする学生たち

ふくし・マイスター

【MIHAMA F-es実行委員会メンバー大募集!!】

昨年度、美浜町商工会青年部と、美浜キャンパス学生有志が中心となって、美浜町の魅力を伝えるお祭りとして企画されました。地域の商工会メンバーや大学のサークルに声をかけて子ども向けに職業体験企画を実施したところ、子どもから大人まで約2000人の参加者がありました。今年度も、2月4日(土)の開催に向けて月に1回程度集まり企画をしていく実行委員会のメンバーを募集しています。子育てや、まちづくりに興味のある人は是非、お近くのCラボか下記のQRコードを読み取って申し込んでください。(中野)



※「ふくし・マイスター」の取り組みと一緒に参加したり、情報を発信したりしてくれる学生を募集しています。Cラボまたは、サービスラーニングセンターまでお気軽にお問合せください。情報を紙面に掲載したい場合もお気軽にご相談ください。

